

メカ・ダチョウとメカ・キリンと メカ・タートルを作るぞ!

きいだ かつひと
城井田 勝仁 (「ロボマガ」記者)

昨年から発売開始されたタミヤのロボクラフトシリーズは、さまざまな生物を模したロボット工作キットだ。はんだ付け作業を必要とせず、ドライバー1本で組み立てられる、プラモデル並みの簡易さにもかかわらず、その機構は工夫されていてとても興味深い。以前に紹介したNo.1～3に引き続いて、No.4～6が新たに発売されたので、今回はそれを作ってみることにしよう。

ロボクラフトシリーズNo.4～6

標準価格：980円

発売元：株式会社タミヤ

関連ホームページ

<http://www.tamiya.com/japan/robocon/robocon.htm>

問い合わせ先

タミヤ・カスタマーサービス

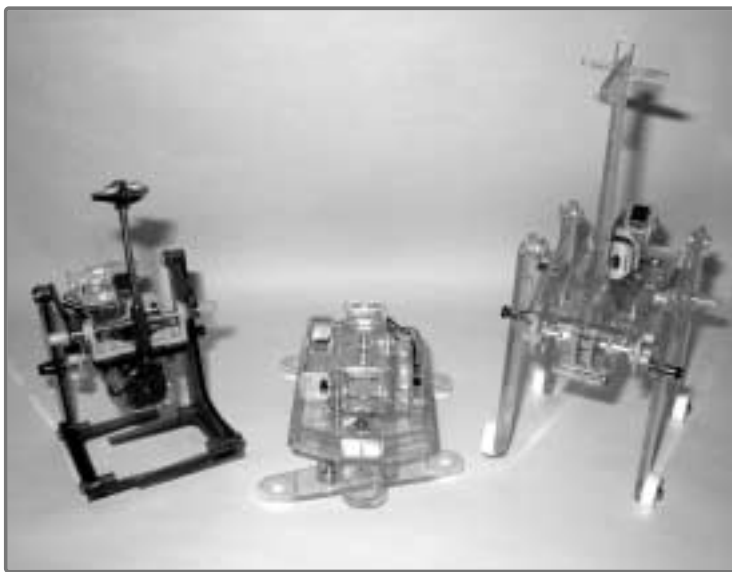
〒422-8610 静岡県恩田原3-7

TEL 054-283-0003 (静岡) / 03-3899-3765 (東京から静岡へ自動転送)

(電話受付 平日 8:00～20:00 土、日、祝祭日 8:00～17:00)

FAX 054-282-7763

全国の模型販売店などで購入できる。



ロボクラフトシリーズの魅力のひとつは、980円という入手のしやすさにある。それでいて、これまでのシリーズ6製品すべてのロボットが、さまざまな歩行を見せてくれる。その動かし方や重心バランスなどは、クリアパーツなのでわかりやすく、とても勉強になる。

ロボクラフトシリーズにはすべて、プラスチックドライバーが同梱される。部品を切り離さなければならないので、ニッパーはどうしても必要だが、とりあえずその2つがあれば組み立てをはじめることができる。ほかに、カッターナイフとピンセットがあれば申し分ない。



ロボクラフトシリーズの組み立てに必要な道具は、カッターナイフとピンセット、それにニッパーだけ。写真中央のプラスチックドライバーはキットに同梱されている。



モータへのコードも配線済み。もちろん、その先端のビニールもむいてある。



ギアボックスはロボクラフトシリーズで共通。キットに応じて、組み立て時にギア比を変える。



電池ボックス配線用のビニールコードも、もちろんその両端のビニールはむいてある。



電池ボックスの組み立て方は、ロボクラフトシリーズで共通。キットによって、単3電池用と単4電池用がある。